

神戸大学が取り組んでいる EU との学術交流 欧州で震災復興をテーマとしたシンポジウム開催

国際企画課国際学術交流グループ担当：大林

TEL 078-803-5282

1. 2013年3月13日（水）於：欧州経済社会評議会

『第1回ジャパニーズウィーク in ブリュッセルにおける神戸大学シンポジウム』

東日本大震災から2周年を迎えるにあたり、ベルギー・ブリュッセルにて欧州連合日本政府代表部の主導により日本関係の行事を開催。その一事業として現地に唯一オフィスを構える国立大学として神戸大学主催のシンポジウムを開催。

2部構成で、第1部は「日・EU 経済の課題と展望」をテーマに、欧州経済社会評議会との共催により、欧州連合日本政府代表部の塩尻幸二郎特命全権大使ご出席の下、国際収支動向、雇用問題、所得格差等の視点から日欧の研究者等が報告・議論した。

第2部は「学問的視点からの復興支援」をテーマに、東北大学との共催により、安全・医療、地域・産業の視点から、被災地で支援にあたる写真家の報告を交えながら、被災地の大学としての震災復興に対する取り組みを報告した。震災復興において、大学、研究者がどのような役割を果たしているか、また期待される役割は何か、について欧州の政策担当者、研究者等と議論した。

2. 2013年11月13日（水）於：国際交流基金ロンドン日本文化センター

2013年3月のブリュッセルでのシンポジウムは参加者から高く評価されたのを受け、国際交流基金ロンドン日本文化センターと同センターにおいて震災復興をテーマとしたセミナーを開催することで合意した。

本年は、日英の外交、通商、科学、文化交流400周年を迎える記念すべき年であり、その記念すべき年とロンドンで開催される日本留学フェアの周辺イベントとして、国際交流基金ロンドン日本文化センターとの共催により、同センターにおいて「学問的視点からの復興支援～神戸から東北へ～」(仮)をテーマにセミナーを開催し、震災復興において大学が社会とどのように関わっているかを報告し、その大学が果たす役割について日英で議論する。神戸大学からは、精神的なケアにおいて阪神・淡路大震災から学んだ教訓を東日本大震災での復興支援に生かす取り組みや震災の経済的影響及び政策、東北大学からは地域社会及び産業の復興について報告する。モデレーターは、本学の協定校であるオックスフォード大学のロジャー・グッドマン教授（日産インスティテュート・社会学）が務める。グッドマン教授は、内閣府の招きで東北の被災地を視察した経験もあり、近年は日本の高等教育改革研究に注力していることから、セミナーのテーマである復興支援における大学の関わりを日英の比較の視点を交えつつ正鵠を射たコメントが期待される。